

山下（真）議員（民主県政会）

平成 29 年 2 月 28 日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）教職員間の同僚性や協働性が欠如していた原因について

教育長が「組織の体をなしていない」と指摘されたように、この学校では教職員が自由に意見を述べ合い、支え合いながら生徒の指導にあたるという本来あるべき学校の態勢が崩壊していたが、このような事態に至った原因について、どのように認識しているのか伺う。

（答）

組織的な学校運営を進めるには、校長を中心として各教職員が課題や情報を共有しながら、自分の役割と責任を自覚し、学校がチームとして機能することが重要でございます。

そのためには、管理職が、教職員から思いや考えをしっかりと傾聴するとともに、管理職と教職員、または、教職員間で話しやすい雰囲気や気軽に相談できる環境を整備することが必要であり、このことは、とりわけ校長の大きな責務であると考えております。

しかしながら、当該校においては、教員から「どうせ校長に言っても無駄だから。」という発言があるなど、校長に、そのような環境を構築する意識が不十分であり、校長と教職員との関係に課題があったと捉えているところでございます。